

課題名	畜産クラスターを核とした収益力の向上	振興局名	県北振興局
活動対象	肉用牛繁殖農家・肉用牛肥育農	実施期間	平成28年4月 ～平成29年3月
<p>【対象の概要】</p> <p>管内の繁殖牛飼養戸数は929戸、飼養頭数は8,172頭（H28.4.1現在）で、16地区の各和牛部会により活動している。高齢化、担い手不足により戸数、頭数が減少しており、生産基盤の維持、拡大が急務となっている。また、離島、中山地域を多く抱え、粗飼料生産基盤が脆弱であることから、安定的な粗飼料確保が課題である。また、管内の肥育農家戸数は32戸、飼養頭数は3,647頭（H28.4.1現在）で、素牛価格の高騰、資材費の高止まりにより生産コストの低減が課題となっている。</p> <p>【課題設定の背景】</p> <p>近年、中規模肉用牛繁殖農家の規模拡大が進んでいる一方、小規模高齢農家の離農により、産地の規模縮小が進行している。全国的にも同様の傾向があり、多数を占める小規模高齢者の離農により、母牛頭数は減少しており、子牛価格の一層の高騰につながっている。</p> <p>このような中、関係事業者が連携・結集し地域ぐるみで収益性を向上させる、高収益型畜産体制(畜産クラスター)を構築するため「ながさき県北畜産クラスター協議会」が発足し、家畜飼養施設の整備や効率的な飼料生産のための機械整備、WCSや地域内粗飼料流通など効率的な飼料確保により収益向上を図る動きが見られる。</p> <p>【活動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 規模拡大意向のある農家に対する重点的な補助事業、資金計画の作成支援 2 栄養度調査と観察補助機を導入した農家の繁殖性調査をもとにした飼養改善指導による生産率向上 3 長崎型新肥育技術の普及による収益性の向上 <p>【活動経過】（活動体制、指導・支援の経過と手法等）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国庫事業（当初4戸、補正10戸）、県単事業（2戸）活用による規模拡大意向農家に対して、事業計画作成支援、補助金申請支援および繰越申請支援を行った。また、拡大意向農家（2戸）及び認定新規就農者（3戸）について、増頭に向けた施設や運転資金（牛、飼料費）資金借受のための経営計画検討への支援を行った。 2 関係機関と連携し管内繁殖農家の繁殖性向上巡回指導を行った。また、各地区和牛部会やあぐりひめ（女性農業者グループ）、県北和牛畜産会（後継者グループ）を対象とした、繁殖成績向上のための研修会を開催した。 3 前期粗飼料多給技術の取組予定者（3戸）について、飼料給与量等の聞き取りを行い、これを基に畜産研究部門の協力を得て給与マニュアルの作成を支援した。また、畜産経営診断を 実施した1戸について、聞き取り調査における助言を行なった。 			

【普及活動の成果】

- 1 牛舎整備事業で16戸、478頭、資金借受けにより5戸（うち新規就農者3戸）93頭の増頭計画ができ、このうち牛舎整備事業で8戸、資金借入農家で2戸について、目標規模達成により30頭以上の飼養規模となる見込みとなった。
- 2 研修会において管内優良地区の事例を紹介し、分娩間隔短縮に向けての意識が向上し、このうち1地区で、授精師と獣医師が連携した分娩間隔短縮への取組を実施することとなった。
- 3 前期粗飼料多給技術の有益性を説明し、取組み農家の理解を深めるとともに、意欲向上を図ることができた。



女性グループ研修会

【対象の声】

- 1 経営に有益となるような情報提供、事業計画の作成支援等を引き続きお願いしたい。
- 2 引き続き分娩間隔短縮の意識付けを図る指導をお願いしたい。
- 3 関係機関による指導を受けて、枝肉重量等の改善につなげたい。そのため、早く技術指導をしてもらえるようお願いしたい。

【今後の課題】

- 1 増頭を達成できるよう、関係機関連携のもと技術面、経営面における支援を継続する。事業開始後に、敷地や法令に関する問題が発生したケースが見られたため、事業予定牛舎については、これらの点の事前調査の更なる徹底を図る。
- 2 管内優良事例を参考とした授精師と獣医師が連携した繁殖管理システムについて、モデル地区を選定し、分娩間隔短縮に向けた取組みを行う。
- 3 マニュアルに沿った給与が行なわれるよう、取組農家3戸への支援を重点的に行う。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

発表・参考資料